

クリモト CSR報告書2006

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2006

株式会社 栗本鐵工所
X KURIMOTO, LTD.

大海原を行くクジラの雄大な姿は、いつでも私達を魅了してやみません。ゆったりと泳ぐクジラと、それに寄り添うダイバーたち。ここでは、クリモトが目指す「人と生き物と自然の共生」が詰まっているということで、横内社長自らこの写真を表紙に選びました。



ソイインクは大豆油をベースにした環境にやさしい植物性のインクです。



ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SA-COC-1220
© 1996 Forest Stewardship Council

FSC認証紙は適正に管理された森林で生産された木材が原料であることを認証された紙です。



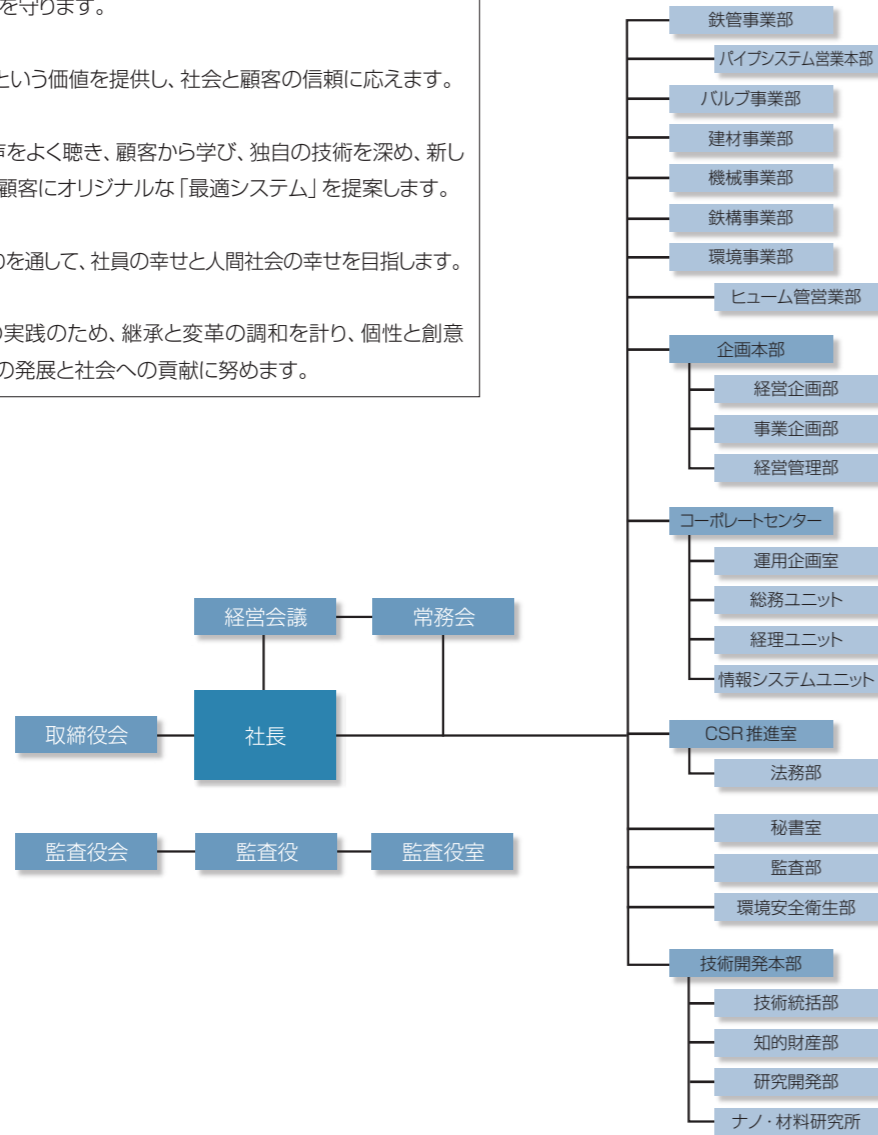
会社概要

商号 株式会社 栗本鐵工所
 英文社名 KURIMOTO,LTD.
 創立 1909年2月2日(明治42年)
 設立 1934年5月10日(昭和9年)
 代表者 代表取締役社長 横内 誠三
 代表取締役専務 上嶋 剛寛
 代表取締役専務 蔵本 浩次
 本社所在地 大阪市西区北堀江1丁目12番19号
 資本金 311億円(2006年3月末現在)
 売上高 814億円(2006年3月期)
 [単体:814億円・連結:1,668億円]
 従業員数 単体:1,715名[男:1,586名・女:129名]
 発行済株式数 133,984千株
 当期末株主数 9,720名
 上場証券取引所 東京・大阪

企業理念

- 私達は水と大気と生命(いのち)の惑星、地球を大切にし、人間社会のライフラインを守ります。
- 私達は「安心」という価値を提供し、社会と顧客の信頼に応えます。
- 私達は顧客の声をよく聴き、顧客から学び、独自の技術を深め、新しい技術を加え、顧客にオリジナルな「最適システム」を提案します。
- 私達はモノづくりを通して、社員の幸せと人間社会の幸せを目指します。
- 私達はこれらの実践のため、継承と変革の調和を計り、個性と創意を尊重し、企業の発展と社会への貢献に努めます。

組織図



C O N T E N T S

トップメッセージ 3

CSR特集

クリモトのCSRが始動します 5
 コンプライアンスの取り組み 6

社会性報告

地域・社会への貢献活動 7
 対外コミュニケーション活動 9
 人事・教育体制 11
 労働安全衛生体制 13
 品質管理体制 15



大阪打ち水大作戦



「神戸エコスクール」に参加



「リクナビLIVE in 東京」に参加



大和川・石川クリーン作戦

環境性報告

環境管理体制 16
 温暖化防止への取り組み 17
 製品・サービスにおける温暖化防止への貢献 18
 廃棄物量削減 19
 化学物質対策 20
 環境関連製品 21



トランスヒート



オーロラマックス



加賀屋工場のキューボラ

経済性報告

主要財務データ&取扱商品一覧(単体) 23
 ライフライン製品 24
 技術開発への取り組み 25
 SPOTLIGHT 27
 クリモトのネットワーク 29



燃料電池電動車いす・カート



栗本コンクリート工業(株)



クリモト創造技術研究所

編集方針と対象範囲

本報告書は(株)栗本鐵工所の継続的な環境活動、取り組みをより多くの方にご理解いただけるよう2000年版から発行し、今回で7回目の発行となります。今号から表題を「CSR報告書」と改訂いたしました。掲載内容については、数値データは2005年4月1日~2006年3月31日ですが、活動内容やトピックスにはそれ以降も含まれます。数値データ等の集計範囲は栗本鐵工所の主要工場(6工場)ですが、環境製品、トピックス、活動内容等に一部関係会社も含まれます。作成に際しては環境省「環境報告ガイドライン」、GRIの「サステナビリティ・リポーティングガイドライン2002」を一部参照しました。対象読者は当社のお客様、従業員、株主、学生、環境に興味のある全市民の方々です。

*GRI(Global Reporting Initiative)は全世界で適用可能な持続可能性報告のガイドラインを策定し、普及させることを目的に1997年に設立された国際組織。「経済的」「環境的」「社会的」の3要素を重視する点が特徴。

環境報告書のバックナンバーは当社サイトでご覧いただけます。
<http://www.kurimoto.co.jp/company/environment.htm>



環境イメージキャラクター「ささら」

クリモトの環境イメージキャラクターである「ささら」は、水がきれいなところにはいかないといわれる伝説の動物です。社内公募で「ささら」という名前になりました。

【お問い合わせ先】
 (株)栗本鐵工所
 環境委員会 教育広報分科会事務局
 高橋昭一
 TEL.06-6538-6241
 FAX.06-6538-7750



TOP COMMITMENT

栗本鐵工所の目指すもの
—信頼の回復と社会への貢献を目指して

株式会社栗本鐵工所
代表取締役社長
横内 誠三

【栗本鐵工所の存在理由】

当社は2009年2月に創立100周年を迎えます。1909年（明治42年）水道・ガス用鑄鉄管の製造から始まり、産業機械や橋梁、空調用スパイラル管、農下水用ヒューム管やFRPM管、電纜管、井戸管、粗大ごみ処理場等々、人々の生活を支えるライフラインを構築。安心して暮らせる環境づくり、国づくりを実現するために貢献してまいりました。

社是の『人類の幸福に貢献していく』決意は創業以来、変わっておりません。公利公益のために地道に社会を良くしていく製品づくりに邁進してきたとの自負があります。

【甘えた体質からの脱却】

しかしながらこの創業の志が上手く継承されず、他社との共存共栄を標榜し良い製品をつくれればよいと考えてきたことが、2度の独占禁止法違反で告訴される事態を招き、多くの方々に不信の念をわき起こしてしまいましたことを猛省し、心からお詫び申し上げます。

【コンプライアンス宣言】

皆さまに再び信頼していただける企業となるために、今後は絶対に違反を起こさないことをここに誓います。もし談合なくして存続出来ない事業ならば撤退するとの宣言を、全社員に向け発表しました。また再発防止に向け、全社員に誓約書へサインをさせると共にコンプライアンス教育の徹底を図ってまいります。

【これからの栗本鐵工所】

100周年を迎えるにあたり、さらなるネットワークの拡大と、技術力の向上を目指していきたいと考えております。

1. 海外展開

中国、フィリピン、ドイツ、米国に拠点を設置しました。一部製品の生産を海外工場への移転も進めております。日本から世界の人々の幸福に貢献するため、海外比率を5年以内に現在の3倍まで高めていきます。

2. 民需開拓

建材・機械を中心とした民需の拡大と共にPPP、PFI参入等、民間比率を5年以内に70%までに高めていきます。

3. M&Aの加速

今までも明光重工業（現住吉工場）、名取製作所（元埼玉工場）、新日本パイプ（現堺工場）などM&Aをしてきましたがそのスピードを加速していきます。

米国のリードコ社、バルブメーカーの本山製作所を皮切りに近々、数件のM&Aを行い、競争力強化と経営基盤の盤石化を図ります。さらに次代のコア事業を育成したいと考えております。

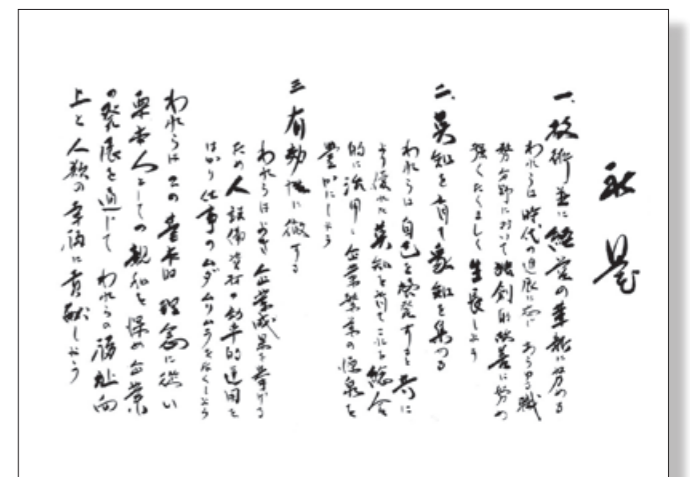
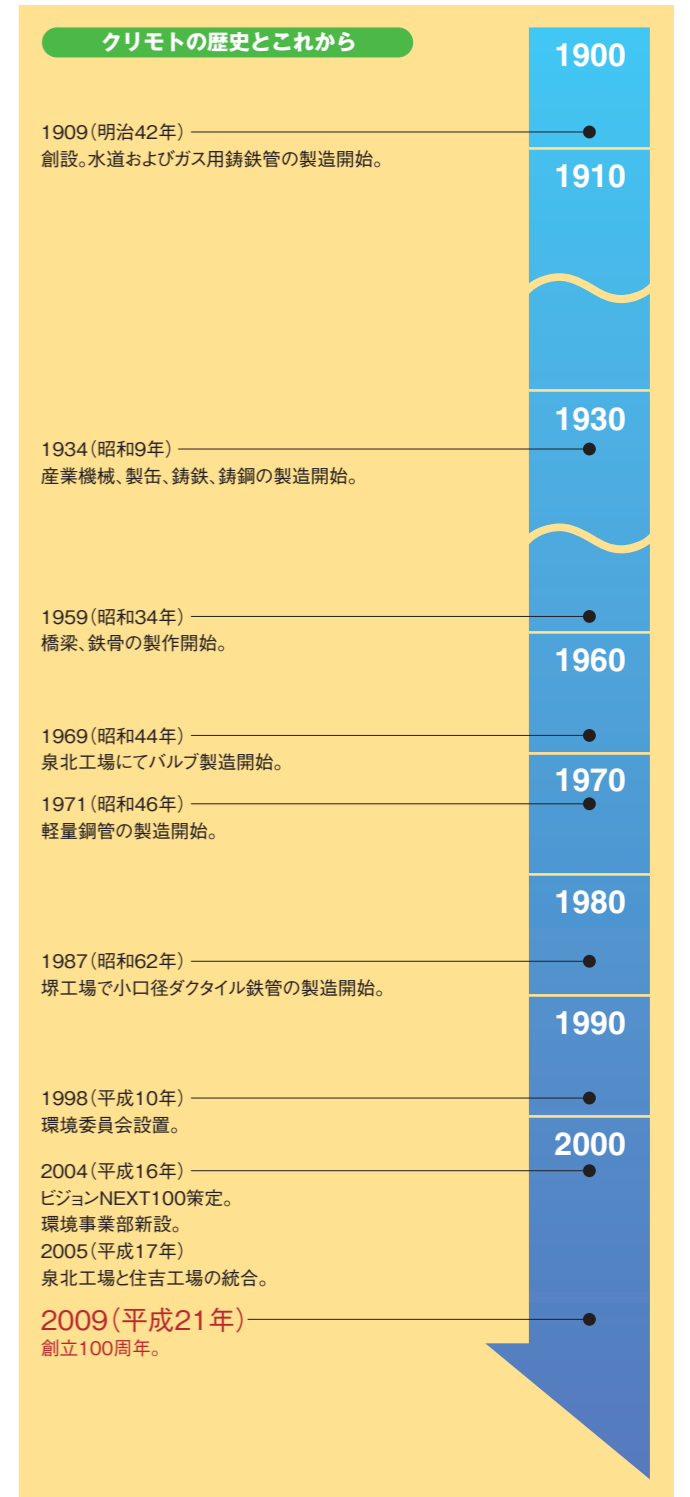
4. 技術立社回帰

長い歴史をもつ当社は様々な技術の蓄積があります。具体的には素材として高強度・高強靱性マグネシウム合金や鉛フリー銅合金・クリカブロンズなどありますが、商品化を急ぎます。

2007年3月には住吉工場内に「クリモト創造技術研究所」が新設されます。今まで分散していた研究施設、人を集結させ原点回帰しコア技術を確認たるものとし、さらに市場投入へのスピードも加速させます。

【戦う集団への変革】

栗本鐵工所は甘えを排し次の100年に向け、今出来ることの最善を尽くす所存でございます。今後もなにとぞご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



〈クリモトのCSRが始動します〉

CSR (Corporate Social Responsibility) は、直訳すれば「企業の社会的責任」となります。これは、企業の利潤を追求するだけでなく、ステークホルダー（企業活動に関係する人々。顧客、取引先、株主、地域住民など）に対し、しかるべき責任を果たさなければならないという考えです。環境問題への対策はもちろん、従業員へのサポート、社会への貢献活動などが含まれます。クリモトのCSRはまだ始まったばかり。皆様から信頼される企業を目指し、今後も精力的に活動を続けていきます。

コンプライアンスの日

当社は2月4日と5月23日を「コンプライアンスの日」と定めています。両日とも、過去に独占禁止法違反で公正取引委員会から刑事告発された日に当たります。二度とこのような不祥事を起こさないため、当日は全社で法令順守を周知徹底するための研修を実施しています。



拡大CSR委員会

当社では、毎月拡大CSR委員会を開催。CSRの進捗状況や新たな取り組みについて、話し合っています。



個人情報保護方針

当社では、2005年4月に「個人情報保護方針」を策定し、ホームページにおいて公表を行い、対外的に個人情報保護法を順守していく旨の宣言を行いました。

当社の個人情報保護方針

1. 個人情報の取得と利用目的

当社では、個人情報の取得に際しては、利用目的を特定して通知または公表し、目的以外に利用することはありません。

2. 個人情報の第三者への提供

当社が取得した個人情報については、事前の公表等でお断りしている場合を除き、事前にご承諾をいただかない限り、第三者への提供はいたしません。

3. 個人情報の安全管理

当社が取得した個人情報については、個人情報管理規定のほか社内規定・基準に基づいて紛失、毀損のないよう適切な管理を実施してまいります。また、第三者に漏洩または外部から改変されることのないよう、厳重なセキュリティ対策を講じます。

4. 個人情報の訂正等

ご提供いただいた個人情報について、訂正等のお申し出があった場合、個人情報保護法に基づいた方法で訂正等を実施いたします。

※当社の個人情報保護方針に関する情報は、HP上でも掲載されています。(株)栗本鐵工所 個人情報保護方針 <http://www.kurimoto.co.jp/privacy/>

情報セキュリティ基本方針

当社は、安心という価値を提供し、社会と顧客の信頼にこたえるため、お客様や、お取引先様からお預かりした情報資産および自社の情報資産を適切に保護することが責務と考え、ここに、基本方針を定め、役員、従業員一同が情報セキュリティ対策に取り組むことを宣言いたします。

1. 情報セキュリティ管理体制の確立

コンプライアンス委員会の中に情報セキュリティ管理の専門部会を設置し、一元管理をすることで情報資産の適切な管理に努めます。

2. 情報資産の保護

適切な情報セキュリティ対策を講じ、情報資産に対する不正な侵入、漏洩、改ざん、紛失、盗難、事故・災害および利用妨害から厳重に保護します。

3. 情報セキュリティの評価

定期的に情報セキュリティ対策の有効性を評価し、必要に応じ改善します。

4. 事業継続管理

当社の事業継続を阻害する事故や災害等が発生した場合の緊急時の対策を含め、遅滞なく事業を継続するための措置を講じます。

5. 内部監査

情報セキュリティ基本方針および関連する法令、規程、契約等が適切に順守されているかについて定期的に内部監査を実施します。

6. 役員、従業員の義務

役員、従業員は情報セキュリティ基本方針および関連する法令、規程、契約等を順守します。これに違反する行為を行った者は、関係法令ならびに就業規則により処分します。

7. 教育・啓発

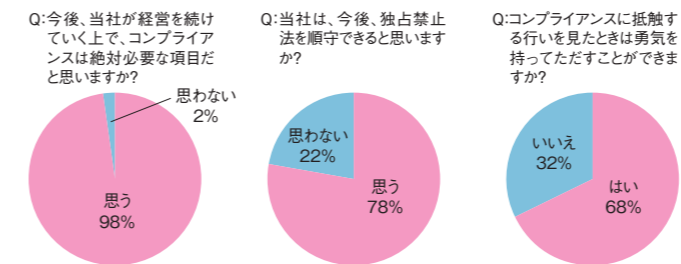
当社は、役員、従業員が情報セキュリティ基本方針および関連する法令、規程、契約等を順守し、理解を深めるために、必要な教育・啓発を行います。

平成16年7月1日
株式会社栗本鐵工所 代表取締役社長 横内 誠三

〈コンプライアンスの取り組み〉

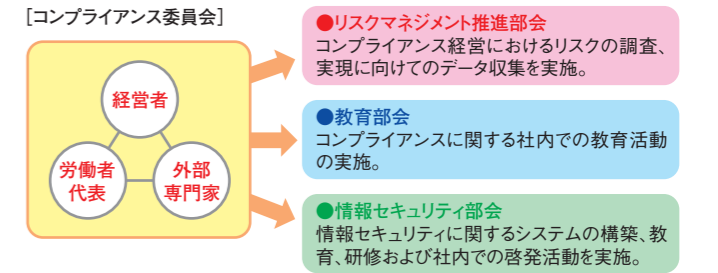
コンプライアンス意識調査

2月4日の「コンプライアンスの日」にちなんで、社内で「コンプライアンス意識調査」を実施。1,838名の社員が回答しました。これらのデータをふまえ、社員の意識改革をより徹底するため、教育や啓発活動を行っていきます。



コンプライアンス委員会を強化

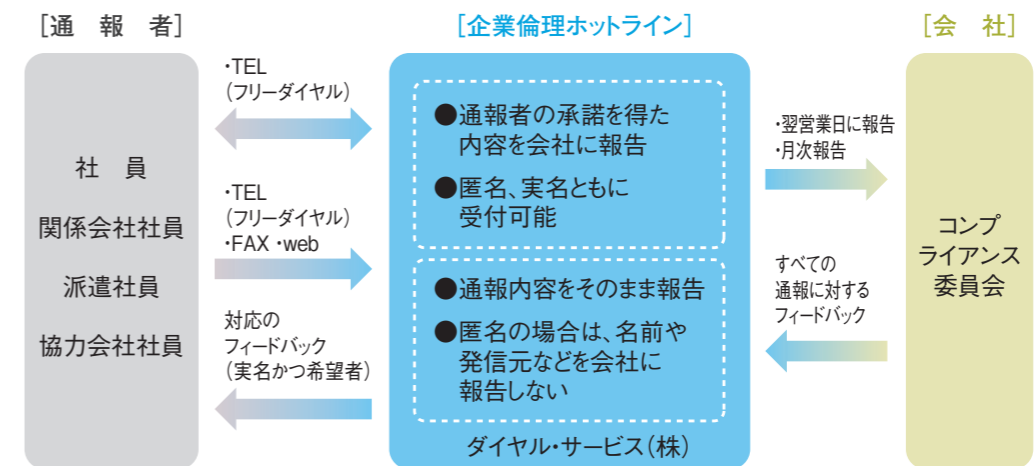
コンプライアンス経営を社内に浸透させるため、コンプライアンス委員会をよりオープンかつ機動的な組織へと強化しました。委員会メンバーの変更や機能面での強化を通じて、より円滑なコンプライアンス経営の普及を図ります。



企業倫理ホットライン

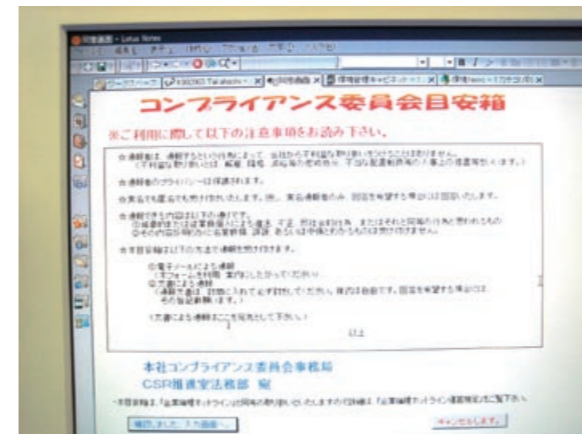
法令と企業倫理の順守を目的に、2004年3月、社内で不正や不祥事、犯罪が起きた場合に匿名でも通報できる「企業倫理ホットライン」を、中立な立場の民間機関内に開設しました。利用できるのは当社・関係会社社員、派遣会社・協力会社社員。電話は月～金曜の午後5時～9時、ファックスとWebは、24時間365日受け付けています。通報者の秘密は厳重に守られており、「企業倫理ホットライン」を利用したことにより、不利益な扱いを受けることはありません。

■ホットラインの仕組み



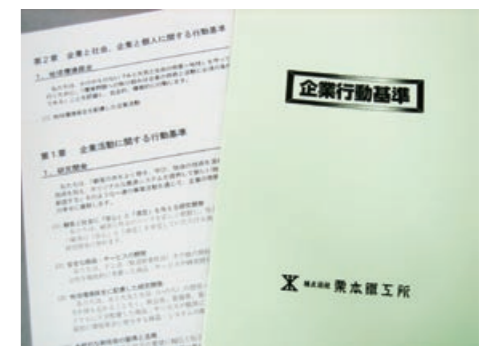
コンプライアンス委員会目安箱 (内部通報制度)

イントラネット上で、法令違反に該当する、またはしそうな事例の通報を受け付けています。現場から素早く収集する体制を整えました。



企業行動基準

今後、不祥事が起こることのないよう、私たちは平成11年に「企業行動基準」を制定しました。これは、事業活動において順守すべき基本的な心構えを説いたもの。さらに「企業行動基準自己チェックリスト」を作成し、社員が普段から基準書に書かれていることを心がけているかの自己確認に用いています。



地域・社会への貢献活動

地球に、社会にやさしい企業を目指して。
地域での活動はもちろん、海外での植林活動など、より広いフィールドで社会貢献活動を行います。

大和川・石川クリーン作戦

毎年恒例となった府内最大の一斉清掃「大和川・石川クリーン作戦」。「府民の力でクリーンな大和川・石川を!!」をキャッチフレーズに、3月5日に開催されました。社長自ら参加したこともあり、参加者数は例年の2倍以上の約80名。1時間にわたって清掃に従事した結果、空き缶など小さなゴミだけでなく、バイクやタイヤなどの大型不法投棄物も多数撤去できました。参加者一同、この活動を通じて、環境問題を見つめ直すことができたのではないのでしょうか。



大阪打ち水大作戦

2006年度、大阪市からヒートアイランド対策モデル地域に選定された南堀江。当社の本社に近いこともあり、大阪市都市環境局・NPO主催の「打ち水大作戦」に参加しました。同じ時間で一斉に水をまくことで、気温を下げるというこの企画。今回も参加者の皆さまのおかげで、気温を2.3度も下げることができました。



新入社員美化活動(淡輪研修センター)

新入社員研修の一環として、研修センター(p.12)周辺にて清掃・美化活動を実施しました。みんなで力を合わせた結果、桜並木にふさわしい、ゴミのない景観に戻すことができました。



「クリーン大阪2006」に参加

2006年度は、大阪市が開催している一斉清掃運動「クリーン大阪」に、加賀屋工場の従業員が参加。住吉川沿いや堀江公園周辺、住之江公園内の清掃を行いました。



オイスカ「子供の森」計画支援(植林活動)

1999年から当社は財団法人オイスカの「子供の森」計画を支援しています。これは子供たちが学校の敷地や隣接地に苗を植え、それを育てていくという学校単位での活動。植林を通して、子供たちの地球環境を大切にすることを養うことが目的です。1991年よりインドネシア・ジャワ島の小学校やリハビリセンターでの植林が始められ、現在も現地の子供たちやハンディキャップのある人たちの手で植林活動が進められています。2006年、ジャワ島の小学校から当社宛に、活動に対するお礼の手紙とクリスマスカードなどが送られてきました。

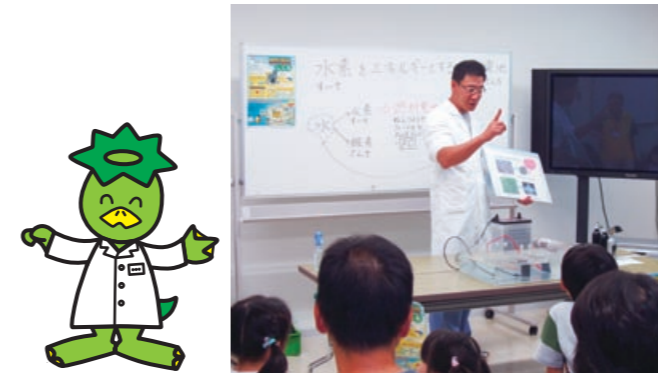
※財団法人オイスカは1961年創立で、国連社会理事会諮問資格GENERAL(最高ランク)の国際的な活動で知られている地球環境を考え、「教育と開発」を促進するNGOです。



送られてきたカードや写真

「神戸エコスクール」に参加

身近な環境問題にふれることにより、子供たちの環境への意識を高揚させたいと開催された神戸市環境局主催「神戸エコスクール」。当社も参加し、水の電気分解実験や燃料電池電動カート、燃料電池電動車いすの試乗体験を実施。子供たちに、楽しみながら環境問題対策を考えてもらうことができました。



▲搭乗証明書。燃料電池電動車いす、燃料電池電動カートに乗った子供に配られた。



献血活動

各工場・支店単位で献血活動を行っています。2006年度の献血者は583名でした(主要5工場と本社の合計)。



大阪府赤十字血液センターからいただいた感謝状



内川・土居川美化活動

大阪府堺市を流れる堀状二級河川、内川・土居川は、高度経済成長期以来の水質悪化に悩まされてきました。そこで、当社大阪臨海工場と栗本環境委員会教育・広報分科会のメンバーを中心に、美化活動に参加しました。



対外コミュニケーション活動

展示会をはじめ、地域のイベントにも積極的に参加。社外の方々とのコミュニケーションを通じて、今後の未来に必要な環境技術の普及を目指します。

「関西ノムラ資産管理フェア2006」に出展

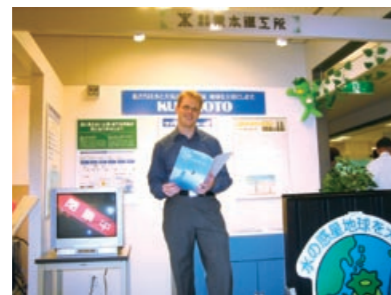
IR活動（投資家向けの広報活動）の一環として、2月17・18日に大阪ドーム（現・京セラドーム大阪）にて開催された「関西ノムラ資産管理フェア2006」に初出展しました。個人投資家を対象にしたこのイベントにて、当社は事業紹介のDVD上映をはじめ、当社の技術・取り組みについてのパネルや製品のサンプルなどを展示。2日間で来場していた約2,000人ものの方に、当社の事業内容をPRすることができました。



「おおさかATCグリーンエコプラザ」に出展

日本初の環境常設展示場「おおさかATCグリーンエコプラザ」（大阪環境産業振興センター）に、平成14年から出展しています。太陽光を用いて室内暖房を行うソーラーウォールが展示されています。当社の環境マスコット「ささら」のぬいぐるみが待っていますので、ぜひ遊びに来てください。

住所 大阪市住之江区南港北2丁目1番10号ATCビルTM棟11F西（ニュートラムテクノポート線「トレードセンター前」駅下車すぐ）
開館日 火曜日～日曜日



「大阪企業家ミュージアム」にて展示紹介

大阪商工会議所創立120周年記念事業として、平成13年6月に開設された「大阪企業家ミュージアム」。「大阪が輩出した優れた企業家の夢や成功までの道のりを紹介する」という目的を持つこのミュージアムには、創業者・栗本勇之助翁も展示されています。法曹界を出て、鉄管製造業者として身を起こした彼の飽くなき挑戦の軌跡は、次代の人々にクリモト魂を訴えています。

大阪企業家ミュージアム

住所 大阪市中央区本町1-4-5
大阪産業創造館地下1階
（地下鉄堺筋線・中央線堺筋本町駅から徒歩3分）
開館日 火曜日～土曜日



環境情報誌「なちゆるる」に掲載

当社の環境への取り組みが、大阪市立環境学習センターから発行されている環境情報誌「なちゆるる」の「まちのかんきょうレポート」コーナーで紹介されました。当社の環境基本方針や「3R+R活動」をはじめとする環境活動などについて、当社環境安全衛生部長からの報告という形で掲載。また記事の他に、表紙にも当社の従業員が環境活動に取り組んでいる写真を掲載していただきました。



対外向け冊子の発行

当社では、社外に向けて「クリモト技報」「環境報告書（CSR報告書）」「経歴書」「KURIMOTO CORPORATE GUIDE」「ANNUAL REPORT」「事業報告書」などを発行しています。

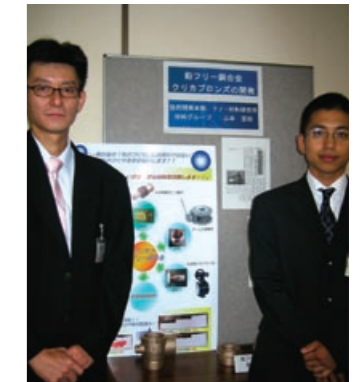


※クリモト技報はサイトでもご覧いただけます。
アドレス：<http://www.kurimoto.co.jp/rd/giho.htm>



第17回研究成果発表会

7月14日、当社にて第17回研究成果発表会が開催されました。2006年は優秀技術開発賞（テクノ賞）4件、優秀発明賞6件の表彰を執り行いました。その後、横内社長が壇上へ。ある書籍の引用「製造業は技術追求を忘れた日から没落がはじまる」から始まり、当社の目指す「技術立社にこだわり、強靱な企業体質づくり」への思い、間もなく完成する技術の総本山「クリモト創造技術研究所」への期待等々を、参加者全員に向け熱く語りました。また発表の合間にポスターセッションも行われ、会場は成果発表の熱気に溢れていました。（写真はポスターセッション）



社内講演会の開催

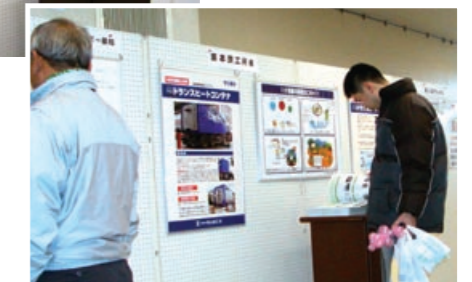
PPP（Public Private Partnership）プロジェクト活動の一環として、管路施設整備の学界第一人者、首都大学東京大学院の小泉明教授をお招きし、講演会を実施しました。テーマは「積極的維持管理で水道管路施設の再整備」。当社の水道維持管理サービス分野の事業性について見つめ直す、よい機会になりました。

※PPPとは「官と民のパートナーシップ」のことで、公共サービスを行政のみならず、民間企業や住民等と連携しながら提供しようとする概念・手法。



交野環境フェスタ

2006年2月5日に星の里いわふねで開催された「環境フェスタ in 交野」において、交野工場が出展。パネル展示や「クリモト環境・社会報告書2005」の配布を行いました。



国内各種展示会に出展

国内で開かれた各種展示会に、当社の各カンパニーや関係会社が出展しました。昨今、環境問題に対する関心が高まっていることもあり、多くの来場者に当社の地球にやさしい機器、新技術を見ていただきました。



2005年9月「管工機材・総合設備展」ライフラインと地球を支える管工機材として、より環境をテーマにした構成がなされる中、バルブ事業部を中心に各種製品が展示されました。



2005年10月「粉体工業展・大阪2005」各種粉体機器の展示やプレゼンテーションを行いました。



2006年7月「下水道展'06大阪」栗本コンクリート工業、栗本化成工業、当社と関係会社の3社が共同で出展しました。

人事・教育体制

企業にとって、社員はかけがえのない存在。彼らの輝かしい前途を応援するため、当社は様々なサポート体制を築いています。

クリモトの採用方針

当社では、次代を担う若手社員を求めています。特に求める人材像は以下のような方です。

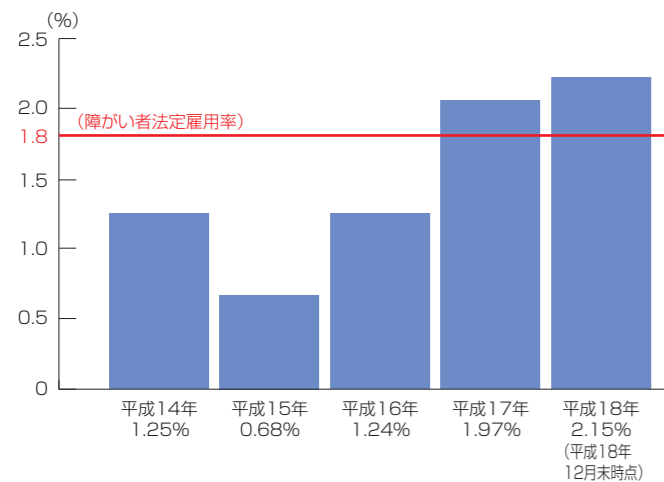
- 自主性を持って物事に積極的かつ意欲的に取り組む方
- 自己啓発意欲の強い方



障がい者の雇用

当社では、障がいのある人が快適に働けるよう、専用のトイレやエレベーターを設置しています。また、合同就職説明会や各種雇用に対するセミナーへの参加等を通じて、積極的に障がい者の雇用を行っています。

障がい者雇用率



人事諸制度

従業員のために、様々な制度を導入しています。

- 育児・介護休業制度
- 育児・介護短時間勤務制度
- ボランティア休暇
- 退職者再雇用制度

「リクナビLIVE in 東京」に参加

当社が大阪にあるため、当社の社員は関西出身の人が大半を占めていました。さらに多くの地域から優秀な人材を募るため、東京で開催された就職セミナー「リクナビLive in 東京」に出展。当社ブースを訪れた多くの学生に、当社の技術力や環境への取り組み等をPRできました。



社内人材公募(ジョブチャレンジ)制度

社員に自己実現の場を与えるため、チャレンジ精神あふれる職場づくりのため、社内人材公募(ジョブチャレンジ)制度を設けています。

公募事例	プロジェクト要員、新事業・新市場への進出、新商品の開発
対象者	勤続満3年以上の全従業員
選考方法	書類(エントリーシート)、面接、その他、応募者の秘密を守るため、選考は原則所定外時間に行う
役職者の禁止事項	人材公募制度による異動拒否権、応募者への不利な取り扱い、応募しないように働きかけたり、反対、妨害等を行った場合は、就業規則第2節の懲戒により処分する

「JOB ALL STARS」に参画

より良い人材を採用するため、優良企業共同による派遣・転職情報サイト「JOB ALL STARS」に参画しています。ご応募をお待ちしています。



「JOB ALL STARS」アドレス
<http://www.joballstars.com/>

教育・研修体系図

	複数型人事コース別研修		全階層対象									
	クリエイティブ	プロフェッショナル	目標管理研修	ニューライフ研修	語学研修	人権・安全・環境研修	ISO研修	通信教育	図書・雑誌	公的資格奨励	IT研修	社外教育機関派遣
基幹職	次世代経営者育成研修 多面評価											
管理監督職	HA研修											
	MOT研修 (技術者)	係長研修 班長研修										
中堅社員	C2研修 営業研修	P5研修										
新入社員	中途入社研修 新人フォロー研修 新人導入研修											

クリモト淡輪研修センター

環境研修、新入社員研修、階層別研修などを行う施設として、大阪府岬町淡輪の恵まれた自然の中に「クリモト淡輪研修センター」を設置しています。ここでは、身体に障がいのある方が不便なく生活できる専用設備を設けているほか、小規模風力発電と太陽光発電の2つのシステムを組み合わせたハイブリッド自家発電によって、クリーンなエネルギーの創出も行っています。



ニューライフ研修

定年後の「第2の人生」にそなえた「ニューライフ研修」を実施しています。退職金・年金・保険等、様々な手続きのほか、充実した生活を実現させるための「定年後の生きがい!」についても、アドバイスを行っています。



「セクシュアル・ハラスメント防止」研修会

8月22日、21世紀職業財団の藤原宣子先生をお招きし、セクハラ研修会を開催しました。当社では男女雇用機会均等法改正時に、各事業所にセクハラ相談窓口を設置しましたが、まだまだ社内での認識が不足しているようです。この研修を通じて、お互いの気持ちを考え、行動することの大切さを、社員各人が再認識しました。



通信教育講座案内

「スキルアップを望む社員をサポートすることが、企業の大事な使命である」と当社は考えています。「与えられる教育から、自ら求める能力開発」をキャッチフレーズに、当社は社員へ通信講座受講の案内を実施。ビジネスシーンで役に立つスキルが学べる講座を揃えました。



新入社員研修

4月3日から19日にかけて、2006年度新入社員への研修が行われました。先輩社員から話を聞いたり、マナー研修を受けたりと、充実した時間を過ごしました。特に7日は、当社の既納物件である明石海峡大橋・篠山市リサイクルプラザを訪問。クリモトの技術を肌で感じる1日となりました。



人権研修

住吉工場で「社会に潜む偏見」をテーマにした人権研修が行われました。偏見というものは、知らないうちに身につけてしまうもの。この研修によって、無意識に抱いていた固定観念や偏見を自覚し、意識改革を始めるきっかけづくりができました。



新入社員のための「ブラザー制度」

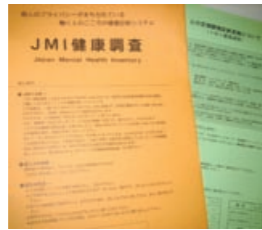
当社では、新入社員全員を対象にした「ブラザー制度」を実施しています。これは、新入社員一人一人に「ブラザー」と呼ばれる教育担当者をつけ、計画的に教育を行っていくというもの。新入社員の仕事や職場に対する不安を取り除き、早期戦力化を目的としています。また新人指導を行うことで、ブラザー自身の成長にもつながっています。

労働安全衛生体制

従業員が健康に働ける環境をつくることも、企業の使命です。
クリモトは、従業員の心身の健康維持を積極的にサポートします。

メンタルヘルスへの対応

従業員全員がすこやかに業務を行うためには、身体の健康だけでなく、心の健康も考える必要があります。当社は全従業員に対し、心の定期健康診断を実施しました。従業員一人一人の状態を把握することで、的確なケアの提供につなげます。



メンタルヘルス基本方針

1. 人間尊重を基本とした心の健康づくりに努めます。
2. プライバシーを守ります。
3. メンタルヘルス対策のための体制づくりに努めます。
4. 各階層にわたり積極的かつ継続的な教育を推進します。
5. 職場環境の改善に努めます。

今後の具体的な取り組み

1. メンタルヘルスの推進体制の確立
2. 心の健康診断の実施
3. メンタルヘルスの啓蒙・研修会等の実施
4. メンタルヘルス関連の規定等の整備

血圧計の設置

従業員の健康管理のため、栗本健康保険組合が各工場・事業所へ血圧計を設置しました。



診療室

当社では主要工場、本社および東京支社に、診療室を設置しています。ここでは従業員の健康チェックや投薬、生活習慣病へのアドバイスを実施しています。



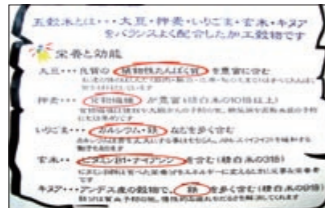
喫煙対策

平成14年の健康増進法成立にともない、喫煙対策強化を図りました。平成16年2月の本社安全衛生委員会で決議し、全社的な喫煙対策として、自席や会議室などでの喫煙を禁止し、分煙機がある場所以外での禁煙が徹底されました。



食生活改善

「食生活から健康管理を」のスローガンのもと、社員食堂では一部健康増進に効能があるとされる麦飯や五穀米を提供しています（五穀米とは大豆、麦、いりごま、玄米、キヌアをバランスよく配合した加工穀物のこと。栄養価が高く、食物繊維が豊富で、体によいとされています）。



球技大会の開催

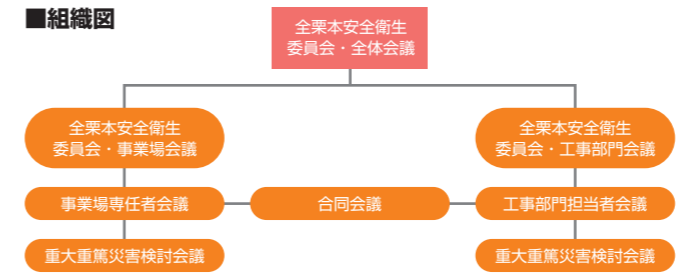
「健全な精神は健全な身体に宿る」をテーマに、2つの「全栗本社内球技大会」を開催しています。在阪工場と本社が、バレーボール・卓球の屋内球技と、野球の3種目において、熱戦を繰り広げています。



全栗本安全衛生委員会体制図

誰もが安心して働ける職場づくりのため、全栗本安全衛生委員会やワーキンググループが定期的に各工場・工事現場のパトロールを行っています。不安全設備・不安全作業（行動）等の摘出、過去に発生した災害の再発防止対策チェック等を中心に、職場災害の防止を目指した活動を実施しています。

■組織図



安全衛生白書の発行

当社では、クリモトグループにおける一年間の安全衛生活動の報告をまとめた「安全衛生白書」を毎年発行。安全に対する教育を実施しています。



防災訓練の実施（住吉工場）

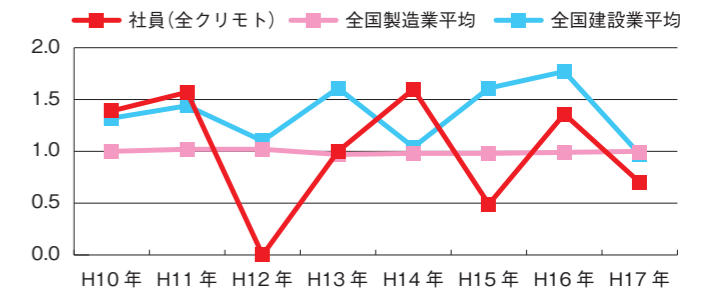
当社では9月1日と1月17日をクリモト防災の日と定めています。この日は各工場、事業所で防災訓練や「緊急連絡カード」の確認を行い、防災体制のチェックや啓発活動を実施しています。



◀緊急連絡カード

度数率と強度率

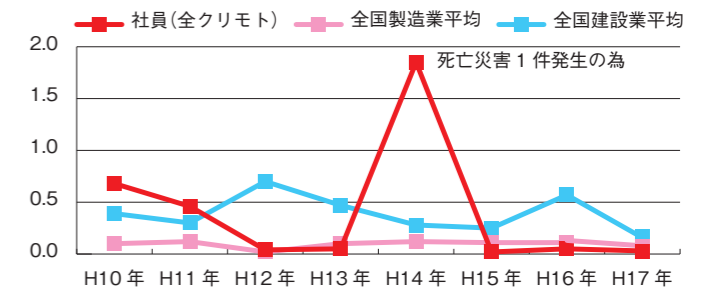
度数率（平成10年～17年）



	H10年	H11年	H12年	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年
社員(全クリモト)	1.39	1.57	0	1	1.6	0.49	1.36	0.71
全国製造業平均	1	1.02	1.02	0.97	0.98	0.98	0.99	1.01
全国建設業平均	1.32	1.44	1.1	1.61	1.04	1.61	1.77	0.97

「度数率」とは、100万延べ労働時間当たりの休業死者数をもって、休業災害（1日以上）の発生頻度を表す指標。
度数率=休業災害死者数/延べ労働時間数×100万

強度率（平成10年～17年）



	H10年	H11年	H12年	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年
社員(全クリモト)	0.68	0.46	0.04	0.05	1.85	0.02	0.05	0.02
全国製造業平均	0.1	0.12	0.02	0.1	0.12	0.11	0.11	0.09
全国建設業平均	0.39	0.3	0.7	0.47	0.28	0.25	0.57	0.14

「強度率」とは、1,000延べ労働時間当たりの損失日数をもって、災害発生の「重さの程度」を表す指標。
強度率=労働損失日数/延べ労働時間数×1,000

AEDの設置（住吉工場、東京支社）

一刻を争う心停止から従業員を守るため、AED（自動体外式除細動器）を住吉工場と東京支社に設置しました。AEDとは心臓に電気ショックを与え、致死性の不整脈である心室細動を取り除く医療機器のことで非常事態が起こった際も、すばやく対応することが可能です。



労働安全衛生マネジメントシステム

当社では、災害につながる危険をゼロにするための「労働安全衛生マネジメントシステム」を取り入れています。災害が発生してから防止策を考えるのではなく、災害を未然に防ぐ方法を追求していきます。

■クリモトグループ OHSAS18001 取得状況

登録組織名	登録日	登録番号	関連事業所	備考
(株)栗本鐵工所 古河工場	1998年12月7日	H001 ※2		BS8800※1
(株)栗本鐵工所 大阪臨海工場	2000年12月8日	JQA-OH0009		
(株)栗本鐵工所 加賀屋工場	2002年3月15日	JQA-OH0025	ピー・エス・ティ(株)	

※1 BS8800とは英国規格協会が(1996年に)公表したOHSAS18001の基になったと言われる安全衛生管理システムに関する規格のこと。
※2 古河工場は埼玉工場が取得した認証を継承しました。

品質管理体制

いつでもお客様にクオリティの高い製品を提供できるよう、クリモトは様々な品質管理体制を築いています。

ISO9001 (品質ISO) 取得

■クリモトグループISO9001 取得状況

登録組織名	登録日	登録番号	登録範囲 (組織)
(株) 栗本鐵工所 鉄管事業部※1	1995年 1月20日	JQA-0766	加賀屋工場、堺工場、ピー・エス・ティ(株)、クリモト・トレーディング(株)、栗本物流(株)
(株) 栗本鐵工所 住吉工場※2	1996年 5月17日	JQA-1281	
(株) 栗本鐵工所 鉄構事業部	1996年 11月15日	JQA-1456	大阪臨海工場、全支社店
栗本建設工業(株)	1997年 12月12日	JQA-2037	
栗本商事(株) 堺事業所	1998年 4月10日	JQA-2277	
栗本化成工業(株)	1999年 5月28日	JQA-QM3393	滋賀工場、湖東工場、全事業所
(株) 栗本鐵工所 環境事業部	2001年 8月24日	JQA-QM6980	栗建ビル、東京、名古屋、東北、北海道、九州
(株) 佐世保メタル	2003年 3月25日	JQ1258A	
摩波東光五金有限公司	2004年 8月	0104Q126379R0S/3302	第一工場、第二工場

※1 2006年11月17日、加賀屋工場と堺工場が鉄管事業部として統合
 ※2 JQA-1436(機械事業部)を2005年8月5日統合

改善提案制度

昭和54年に仕事の効率化を図るため、全社的な改善推進委員会(クリモト中央提案委員会)が設置されました。以来、全社員を対象とした改善提案制度が実施されています。今年度は20,236件の提案が出され、その効果金額は前年の4億1,200万円を大きく上回る5億6,300万円となりました。



大阪臨海工場・加賀屋工場

大阪臨海工場と加賀屋工場では、環境マネジメント規格のISO14001、品質管理規格のISO9001、労働安全衛生マネジメントシステムのOHSAS18001を取得しています。



QCサークル

当社ではQCサークルが各工場にあります。QCはQuality Controlの略で、品質管理という意味。QCサークルでは現場の作業員たちが率先して、不良品防止や作業工程改善などの方策を考え、実施しています。



環境性報告

環境管理体制

2000年2月「栗本環境自主行動計画」を制定して以来、持続可能な社会の構築を目指し、全社員を挙げて計画を推進しています。

環境基本方針

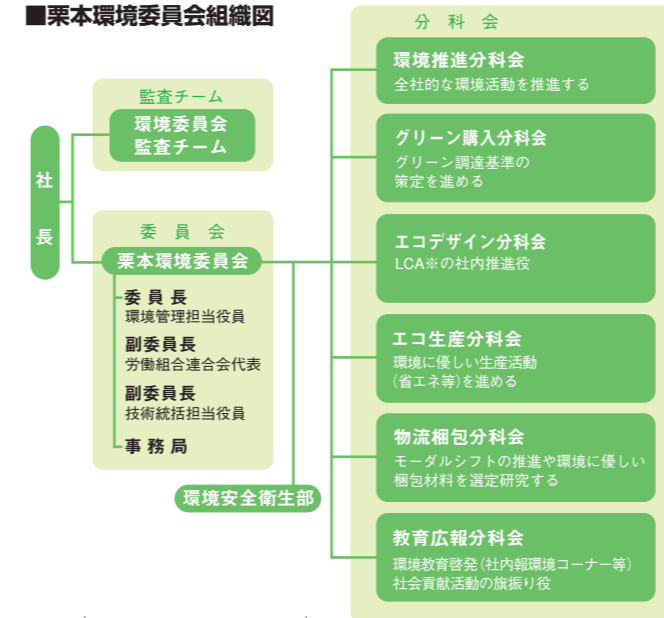
私たちは全ての事業活動において、水と大気と生命(いのち)の惑星、地球の環境にこだわったモノづくりに励むため次の活動を進めます。

- 1 効果的な環境保全活動の推進
 - 2 法規制等の順守および環境リスクの排除
 - 3 省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、リサイクル
 - 4 環境調和型製品への移行推進および環境保全機器設備の開発
 - 5 社員の教育、啓発
 - 6 地域社会への貢献
- (制定日：1998年6月2日)

栗本環境委員会

1972年に設立した中央公害対策委員会から発展した組織で、1998年に設置しました。各事業所・事業部を横断的に結んでおり、具体的な実行を推進するための6つの分科会を設け環境自主行動計画の実現に向け、活動を推進しています。

■栗本環境委員会組織図



※LCA(LIFE CYCLE ASSESSMENT)
 製品の製造から廃棄までの全ての工程で環境負荷を把握、分析し評価する手法

日経環境経営度調査

日本経済新聞社が実施した第9回「日経環境経営度調査」において、製造業部門の330位になりました。

■「日経環境経営度調査」製造業部門におけるクリモトの順位

第1回	97位
第2回	—
第3回	128位
第4回	204位
第5回	237位
第6回	159位
第7回	200位
第8回	202位
第9回	330位



栗本環境自主行動計画

持続可能な循環型経済社会の構築に貢献していくため、2000年2月に栗本環境自主行動計画を制定しました。

- 地球温暖化対策
- ゼロ・エミッション構想の導入
- 環境負荷低減技術の集約・環境調和機器の開発
- 環境対応企業としての社内教育と広報活動の推進

という4つの重要課題について、行動目標を設定し、各事業所で目標達成のためにさまざまな活動を行っています。

地球温暖化、資源の枯渇、廃棄物の増大など、地球的、地域的環境問題が深刻化する中で、大量生産・大量消費・大量廃棄という経済構造の見直しや、それに伴う企業環境経営、企業生産活動のあり方についての早急な変革が求められている。このような状況の中において当社もあらゆる活動において環境との調和を一層強化し持続可能な循環型経済社会の構築に貢献していかなければならない。そのために栗本環境委員会および国際環境規格であるISO14001環境マネジメントシステム等の有効かつ効果的活用により環境保全創造活動、環境調和機器開発等の自主的、積極的な取り組みを推進することが極めて重要である。その認識の下、当面する重要課題である次の項目について自主行動活動を策定し環境行動指針とし、その推進に鋭意努力するものとする。(制定日：2000年2月22日)

ISO14001 (環境ISO) 取得

■クリモトグループISO14001 取得状況

登録組織名	登録日	登録番号	登録範囲 (組織)
(株) 栗本鐵工所 大阪臨海工場	1998年 3月20日	JQA-E-90130	
(株) 栗本鐵工所 住吉工場※1	1998年 3月27日	JQA-E-90144	
(株) 栗本鐵工所 鉄管事業部 堺工場	1999年 12月3日	JQA-EM0613	クリモト・トレーディング(株)、栗本物流(株)
(株) 栗本鐵工所 加賀屋工場	2000年 2月10日	JQA-EM0710	ピー・エス・ティ(株)
栗本建設工業(株)	2000年 7月21日	JQA-EM0939	本社、各支店
(株) 栗本鐵工所 建材事業部	2001年 9月20日	E327	交野工場、古河工場
(株) 栗本鐵工所 本社※2	2001年 11月9日	JQA-EM1887	全支社・支店
栗本化成工業(株) 湖東工場・滋賀工場	2001年 11月30日	JQA-EM1947	湖東工場、滋賀工場、全事業所

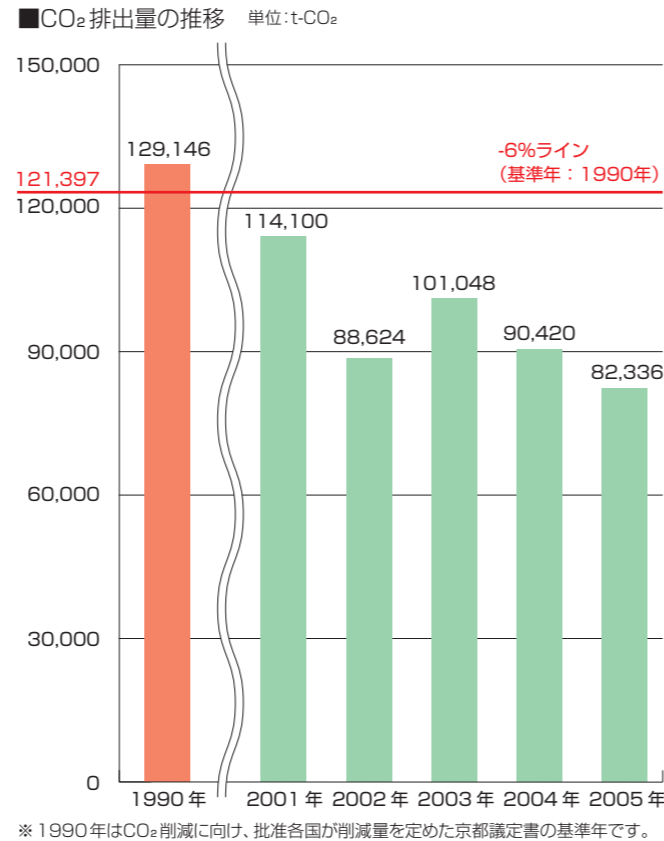
※1 泉北工場は、住吉工場へ統合されました。
 ※2 本社・支社店とは栗本鐵工所本社および支社店における営業・間接部門の全従業員を対象とした認証取得です。

温暖化防止への取り組み

地球環境に深刻な被害を与える温暖化。当社は設備改善等によって、CO₂排出を抑制していきます。

CO₂排出量の推移

1990年発効の京都議定書により、日本国内では、1990年の温室効果ガス排出量の6%削減が求められています。これを受けて、当社では全社的に温暖化対策を始めました。特に、当社のCO₂総排出量の約94%を占めていた加賀屋工場と堺工場では、設備を環境負荷の少ないものに切り替える等の対策を実施。その成果もあり、2001年からCO₂排出量が、1990年排出量の-6%をクリアしています。



自主参加型国内排出量取引(加賀屋工場)

当社は、環境省の自主参加型国内排出量取引制度に参加しています。これは、CO₂排出量削減に取り組む企業に対し、省エネ対策の補助金を出すというものです。参加各企業には排出枠が与えられ、CO₂排出量をその枠内に抑えることを目指します。当社加賀屋工場は2006年度、38,031 二酸化炭素トン (t-CO₂) の排出枠初期割当を与えられました。



省エネ対策(堺工場)

堺工場では、コージェネレーションシステム(一つのエネルギーから複数の有効なエネルギーを発生させるシステム:熱電供給)を新たに導入しました。また熱風キュボラによる溶解を行っていますが、その熱風発生装置である空気予熱器を2005年に更新しました。この更新により、熱効率が上がり、省エネルギーに大きく寄与します。システム導入前に比べ、コークス使用を約5.4%削減し、電力量も各付帯設備で異なりますが、それぞれ約10~20%削減しました。



製品・サービスにおける温暖化防止への貢献

クリモトでは、石油に代わるクリーンなエネルギーの開発に尽力しています。

バイオガスプラント

生ごみや家畜の排泄物など廃棄物からエネルギーを生成する「バイオガスプラント」。廃棄物から発生するバイオガスの中からメタンガスを取り出し嫌気性メタン発酵させることで、電気と熱に変換するシステムです。メタンガスには温室効果があり、地球温暖化を促進する一因となっています。また、家畜の糞尿が野積みになれば、土壌・水質汚染につながる点も問題視されています。「バイオガスプラント」を使用すれば、エネルギーとして有効活用できるため、省エネルギー・温暖化対策はもちろん、廃棄物の減少にも高い効果を発揮します。現地で組み立てて設置するプラントとは異なり、当社ではコンテナ型の発酵槽を工場生産し、現地へ置く方法をとっています。これにより、低コスト・短工期の製品を実現しました。



燃料電池

燃料電池は、都市ガスや液化ガスから取り出した水素と空気中の酸素を化学反応させ、電力を生み出す仕組みです。従来の発電方法と違い、燃やすことがないのでCO₂を排出しません。当社では2003年から、障がい者や高齢者用の燃料電池電動車いすの試作を開始。2006年9月末から、本格的な使用実験に入りました。従来の充電式に比べ、2倍以上長い連続10時間走行が可能。より便利な移動ツールとして、いち早い実用化を目指しています。



圧縮天然ガスステーション エコステーション

天然ガス自動車の利用が平成15年末時点では、全国ベースで2万台近くになるなど、天然ガスの需要が増えつつあります。当社では、2003年に天然ガス供給施設「エコステーション」を開業。天然ガスはCO₂や窒素酸化物の排出量が少なく硫黄酸化物を排出しないため、大気汚染対策には欠かせません。環境負荷の少ない天然ガスを普及させることが、温暖化抑制につながります。

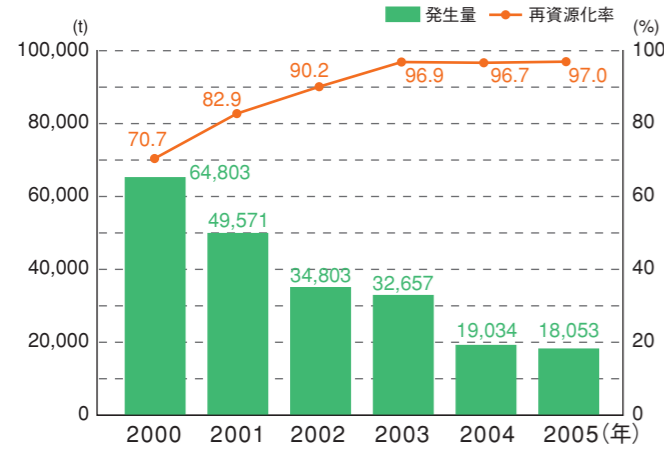


廃棄物量削減

クリモトでは、廃棄物を発生させないこと、発生した廃棄物を再資源化することで、廃棄物量削減を図っています。社内での活動はもちろん、廃棄物対策の製品開発も進めています。

廃棄物量の削減

■廃棄物量とリサイクル



「ごみ減量優良建築物」標章を取得

本社ビルおよび住吉工場が、2005年に「ごみ減量優良建築物」標章を取得しました。「ごみ減量優良建築物」標章とは、大阪市環境事業局が、ごみの減量やリサイクルに対し積極的に活動した建築物に贈呈している「ごみ減量優良標」を5年連続して取得した建築物に贈られるものです。



廃棄物の削減対策

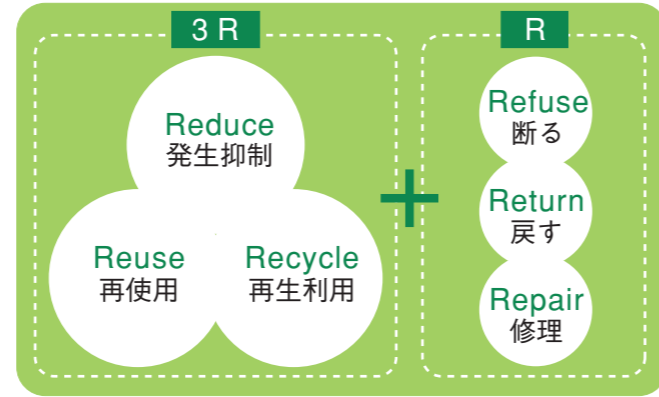
工場における廃棄物の削減対策として、シックナー（凝集沈降槽）や汚泥乾燥槽を使用。廃棄物の8割近くを占める鉱滓や汚泥を脱水圧縮し減量に努めています。また、各オフィスには分別箱や古紙リサイクルボックスを設置しています。裏面利用など資源の有効活用や、空き缶分別箱等を用いるなど、徹底したごみの分別を実施。リサイクル活動を推進し、廃棄物量の削減を目指します。



シックナー（凝集沈降槽）

3R+R活動

「リデュース（発生抑制）」「リユース（使えるものは繰り返し使う）」「リサイクル（再生して資源として利用する）」の3R。当社はこの3R活動に「リフューズ（要らない包装などは断る）」「リターン（戻す）」「リペア（修理して長く使う）」のRを加えた3R+R活動を実施しています。



廃棄物対策製品

■廃コンクリート再生機
オーロラマックス（クリモトメック）

ビルや道路を解体した際に出る廃コンクリートは質が悪く、コンクリートとして再利用するには強度が不足していました。関係会社・クリモトメック（株）が、大阪市立大学と共同で開発した高品質再生骨材製造機「オーロラマックス」は、ローターの偏心回転によりコンクリート塊の表面に付着したモルタルを剥がし、高品質で強度のある再生粗骨材を製造します。再生粗骨材は再び建築物に使用することができるので、解体の際の廃棄物を大幅に減らすことが可能です。また、処理の過程で加熱や化学処理を行わないため、コスト面でメリットがあるほかCO₂の排出抑制にも貢献しています。2007年に製品化を控えており、業界からの注目を集めています。



化学物質対策

人体や環境に有害な化学物質。製品開発での使用を抑え、除去していくことで、大切な自然を汚染から守ります。

環境リスクマネジメント

当社が排出する化学物質の大半は、製品に使用する塗料に由来するものです。その排出量削減のため、粒状活性炭を利用したクリモト溶剤回収装置を用いたり、塗料を使わない鋼橋箱桁内部無塗装システムの研究開発を行い、使用量の削減を目指しています。

■平成17年度 PRTRデータ

政令No	物質名	大気への排出	水域への排出	土壌への排出	排出量の合計	移動量
63	キシレン	73,816	0	0	73,816	5,805
227	トルエン	34,159	0	0	34,159	6,080
40	エチルベンゼン	13,905	0	0	13,905	322
	その他※	37	0	0	37	4,580
	合計	121,917	0	0	121,917	16,787

※鉛及びその化合物、ニッケル、ふっ化水素及びその水溶性塩

単位: kg

PCB（ポリ塩化ビフェニル）対策

PCBはコンデンサーや安定器などに使われてきましたが、昭和43年の「カネミ油症事件」をきっかけに、その毒性が明らかになりました。その後法律によって、平成28年7月までにすべてのPCB廃棄物の処理等が義務づけられました。当社は支援制度を利用し、来年度から計画的に処理していく予定です。



住吉工場では専用の倉庫に入れるだけでなく、さらに鋼鉄製ボックスの中に入れ、認識番号を付け徹底管理を行っています。

無添加住宅（栗本建設工業）

建材に使用される化学物質が原因で起こるシックハウス症候群は、目やのどの痛み、吐き気や頭重など、深刻な症状を引き起こします。そこで、関係会社・栗本建設工業（株）では、安心して暮らせる家「無添加住宅」の提供を始めました。この家では、壁に漆喰、床に無垢木材、接着剤に米のり・にかわといった天然素材を使用。また、シックハウス症候群の原因となる合成接着剤・防腐剤不使用で、身体への害が少ない安心設計です。安心な暮らしを提供するため、お客様との会話を通じて、一人ひとりの希望にかなった家を作っています。



※当社の関係会社・栗本建設工業株式会社は、建築・土木工事の設計や施工など建設・工事等を請け負っています。

地下水・土壌汚染浄化システム クリモト溶剤回収装置

トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンなどに代表される有機溶剤は化学製品の原料、洗浄溶剤といった用途で重宝されてきましたが、水より比重が大きく粘性が低いという性質があります。そのため、わずかな隙間をぬって地中に漏れやすく、土壌や地下水汚染の原因となっています。「クリモト溶剤回収装置」は、地中に漏れたガスから有機溶剤を回収し、汚染された土壌・地下水を浄化します。



環境関連製品

温暖化、廃棄物、水質汚染、騒音…。
日々深刻化しつつある様々な環境問題に対し、当社は環境技術の開発に日々取り組んでいます。

橋梁エンクローズシステム

東京大学大学院工学研究科の藤野陽三教授指導のもと、技術開発本部と(株)クリモテクノス、鉄構カンパニーが従来の発想を転換した防食方式「橋梁エンクローズシステム」を開発しました。このシステムは橋梁全体を密閉度の高いカバー構造で覆い、外気中の飛来塩分など不純物や雨水の浸入をシャットアウトするとともに、内部空間の湿度を除湿剤により制御することで錆の発生・進行を抑える独自の防食技術に基づいています。また、橋梁の裏面のパネルには(株)クリモテクノスで取り扱っている「クリモ吸音板」を採用。これは、都市部の高架橋の交通騒音対策や美観対策などへの効果のほか、本体塗装の大部分の省略、原則塗り替え工事も不要など維持管理の簡易化、橋梁の長寿命化やライフサイクルコストの低減といったメリットがあります。現在、大阪臨海工場の海側の敷地に実証試験を行っています。

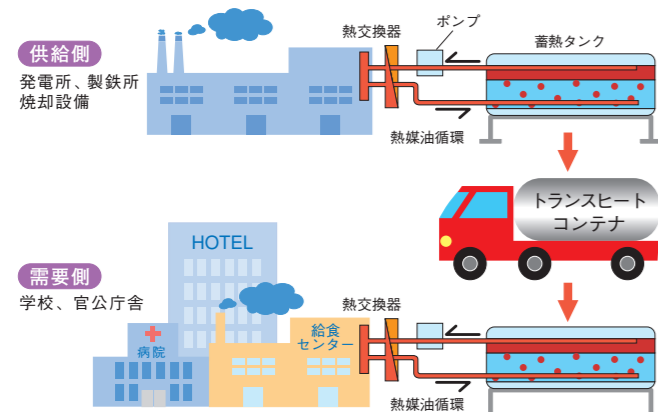


潜熱蓄熱搬送システムトランスヒート

下水污泥焼却施設や廃棄物焼却施設からは、200度以下の低温廃熱が発生します。トランスヒートは、この低温廃熱をエネルギーとしてほかの施設へと供給するシステムです。吸収された熱はタンク内の潜熱蓄熱材に蓄えられ、需要側の施設へと搬送されます。トラック運搬が可能のため、インフラ整備の必要もなく、コストが大幅に削減できること、必要なときに必要な量を供給できることがメリットです。運ばれた廃熱は、官公庁舎やオフィスビルなどの冷暖房や給湯用のエネルギーとして、1年を通じて供給できます。

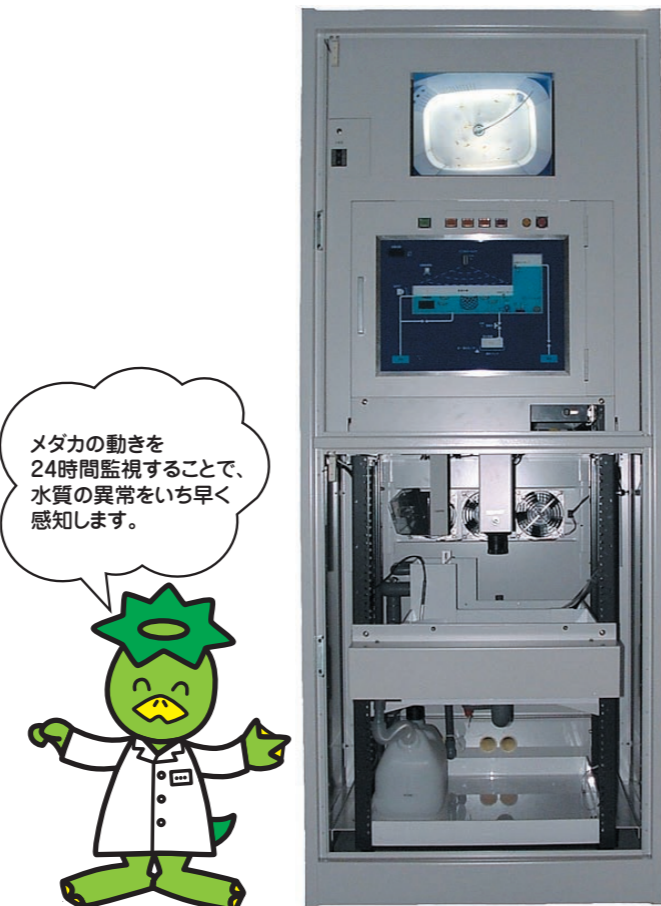


⇒ p25



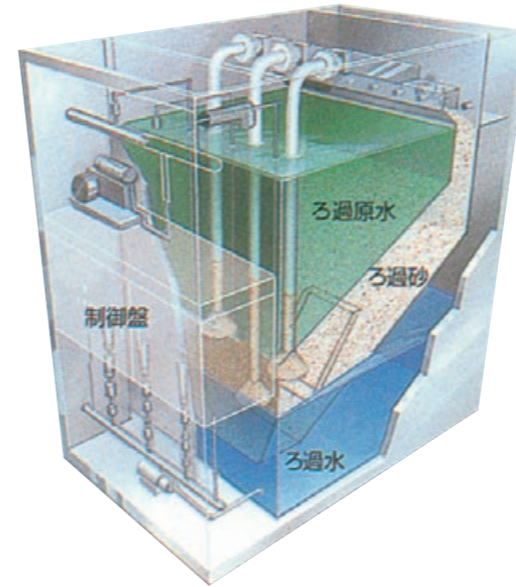
バイオアッセイ メダカセンサー (ピー・エス・ティ)

当社の関係会社・ピー・エス・ティ(株)では、24時間体制で水質を自動監視する「メダカセンサー」を販売しています。これは、清水に住むヒメダカの動きを常時CCDカメラで撮影し、その動きを画像解析するもの。メダカの動きに異常が起こった際には、警報を発します。2003年より、FOMAの映像伝達機能を使用した遠隔映像監視機能を導入。離れた場所からの水質管理も可能になりました。



高度処理水用砂膜ろ過装置 リーチフィルター

「リーチフィルター」は、水の浄化作用がある砂で工業用水をろ過する装置です。自然の砂を利用しているため環境ホルモンが溶け出すことがなく、水質汚染の心配がありません。また、ろ過機内の状況に応じて自動でろ剤の洗浄を行います。効率の良い洗浄水の利用とろ剤の完全洗浄システムにより、水の回収率95%以上を達成。また、高濃度のSS(浮遊物質)を含む排水処理も可能です。



流動床式ガス化溶融炉

ダイオキシン類などの有毒物質は、ごみの低温焼却が原因で発生します。「流動床式ガス化溶融炉」は、焼却と溶融を同時に効率よく行う装置です。高温燃焼、低空気比運転、排ガス処理により、ダイオキシン類、窒素酸化物などを低減させます。また溶融により廃棄物自体も減容させるので、廃棄物量削減にも役立ちます。



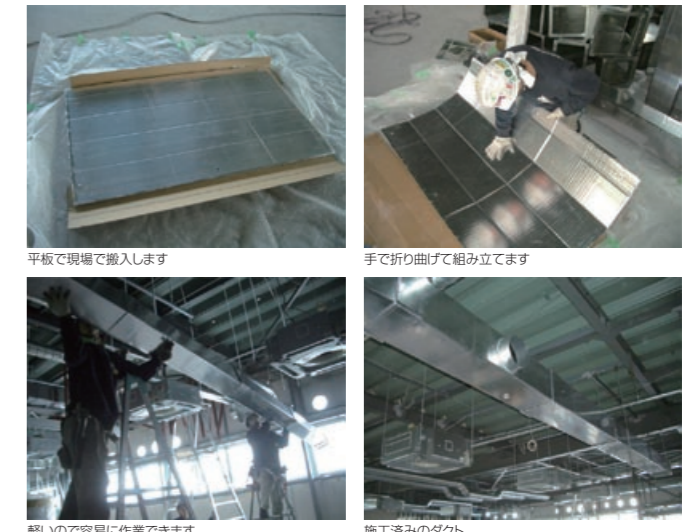
廃プラスチック再生用乾式洗浄装置

当社はドイツのデュアルシステム・ドイチュラント社(DSD社)との乾式洗浄装置の国内独占技術供与に関する提供により、「廃プラスチック再生用乾式洗浄装置」を開発しました。この装置は、ローラーの遠心力やプラスチック同士がぶつかり合った際の摩擦を利用して、汚れを除去するもの。土砂が付着した農業用廃シート、油分が付着したプラスチックなどを、水を使用せずに洗浄することが可能です。従来、汚れた廃プラスチックは埋め立てや単純焼却されてきましたが、この装置によりRPF原料化や再生プラスチック原料化が容易になりました。また紙とプラスチック、紙とアルミハクなどの複合剤を素材分離することも可能です。

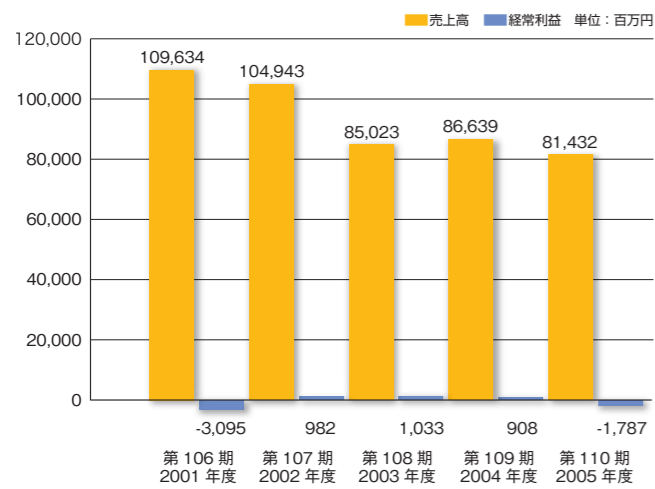


段ボール製空調用ダクト コルエアダクト

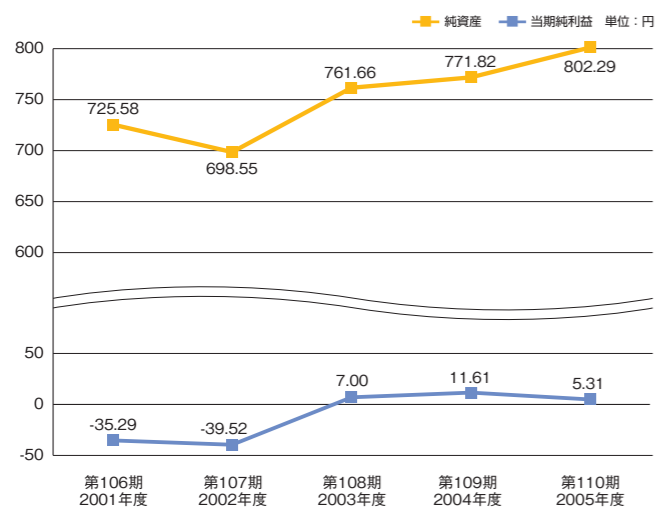
大成建設(株)・レンゴー(株)と共同で、アルミニウム箔をラミネートした段ボールを基材に空調用ダクト「コルエアダクト」を開発しました。従来の空調用ダクトは亜鉛メッキ鋼板製で、結露を防止するためグラスウールなど保温材と組み合わせて使用しますが、これらの材料は生産・廃棄時に多量のエネルギーを消費します。また作業者が年々高齢化する作業工事現場において、材料の軽量化が求められていました。それらの問題を解決する新素材空調ダクトとしてコルエアダクトは最適といえるでしょう(LCA計算にてCO₂排出量は従来品の1/3、重量は1/5)。現在、2007年以降の販売を目指して、実証試験と応用開発を行っています。



■売上高・経常利益



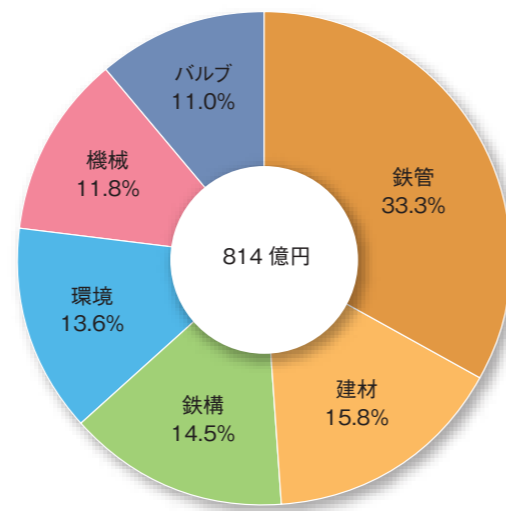
■1株あたりの純資産・当期純利益



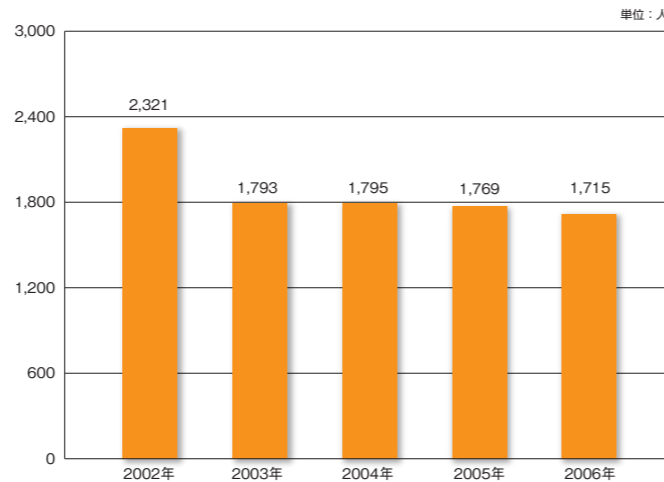
■事業部別取扱商品一覧

事業部	事業部別主要取扱品目
鉄管事業部	ダクタイル鉄管、異形管、付属品、対摩耗管、水道用ポリエチレン管
鉄構事業部	橋梁、水門、水管橋、ベンストック、溶接鋼管、刈草の固形・炭化システム
機械事業部	粉碎機、混練機、化工機、プレス、各種産業機械およびプラント、プレーキシテム
建材事業部	スパイラルダクト、各種フレキシブルダクト、ステンレスダクト、スーパースパイラル、ワインディングシース、ワインディングパイプ、消音フレキ、消音ボックス、中空スラブ、梁貫通孔補強筋
バルブ事業部	バタフライ弁、ソフトシール仕切弁、エキセントリック弁、制水扉、可動堰、逆止弁
環境事業部	リサイクル施設、ガス化溶融炉(施設)、ごみ炭化プラント、都市ごみ焼却施設、ごみ固形燃料化(RDF)施設、廃プラスチック燃料化(RPF)施設、廃プラスチック乾式洗浄機・減容機、廃自動車処理施設、バイオガスプラント

■2006年3月期 部門別売上高



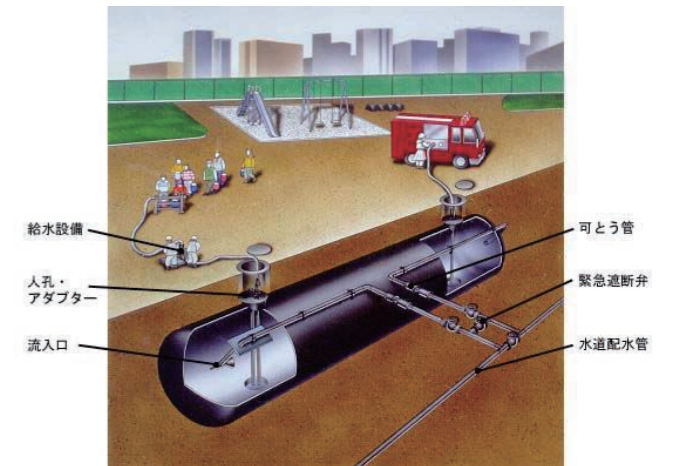
■従業員増減表



身近なところに息づくクリモトの技術。多様な製品で、生活をサポートします。

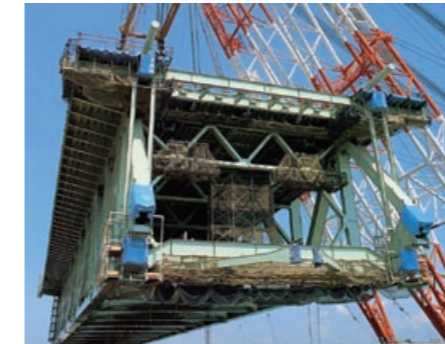
耐震型鋼製貯水槽 クリタンク

地震国といわれる我が国においては、ライフラインのひとつである水道施設にも様々な地震対策が施されています。しかし、地震の規模によっては、その機能を完全に果たし得るか否かは保証の限りではありません。そこでクリモトは、万一の場合に貴重な飲料水や生活・防火用水を確保する耐震型鋼製貯水槽「クリタンク」を開発しました。このシステムは常時は水道管路の一部として機能しており、大きな地震動を感知すると、自動的に緊急遮断弁が閉鎖し、安全な水を確保するもの。「双方向異形流入方式」によってタンク内の水を循環させ入れ替えているため、常に新鮮な水がストックできます。



関西国際空港連絡橋 トラス橋

人や車、鉄道が、川や海峡を安全に横断するために必要な橋。当社では、場所や使用目的に合わせ、様々な種類の橋梁を製造しています。



鉄管 ダクタイル鉄管

ダクタイル鉄管は人々の暮らしを地下で支える水道管やガス管といった、産業の大動脈として大きな役割を担っています。生活のあらゆるところで活躍しています。



ステンレス製バタフライ弁 白蝶

弁(バルブ)は上下水道や農業用水、各種プラントの機能を支える重要な部品です。ステンレス製バタフライ弁「白蝶」は耐久性に優れ、長期間使えるため、廃棄物の発生を抑制します。



水門 ローラゲート

各種のダムや利水目的の河川ゲート、河口堰から、治水、発電、そして農業用水、さらには防潮水門にも使用されます。



井戸用 ポリコンFRP管

農下水や電気ケーブル保護管として使用されているポリコンFRP管。土中に埋設しても腐食や電食の発生がなく、耐久性にもすぐれており、井戸用パイプとしても活用されています。(栗本化成化学)



下水道 ヒューム管

下水管の主要管として用いられ、開削工法はもちろん推進工法などにも対応できる点から、利用範囲を拡大。生活環境の改善・整備を陰で支えています。(栗本コンクリート工業)



技術開発への取り組み

～研究センター「クリモト創造技術研究所」から始まる新技術～

2007年春、研究センター「クリモト創造技術研究所」が完成します。ここからクリモトの技術開発は新たなステージに突入します。新研究施設では、社内・グループ内との連携はもちろん、各大学や他企業の研究開発機関との連携を図りながら、技術開発のレベルアップ、スピードアップに注力していきます。

トランスヒート

廃棄物焼却施設などから発生する低温廃熱（200℃以下）を回収・運搬、熱エネルギーとして供給する潜熱蓄熱搬送システムです。未利用エネルギーの活用とCO₂の大幅な削減が見込まれ、環境省「地球温暖化対策技術開発事業」として実証試験を2004年度から開始しています。



クリモト創造技術研究所

2007年春、住吉工場内に新研究所が完成します。社内外の技術情報はここに集約され、最新の研究に取り組みながら、様々な部門とのコラボレーションが誕生する場です。

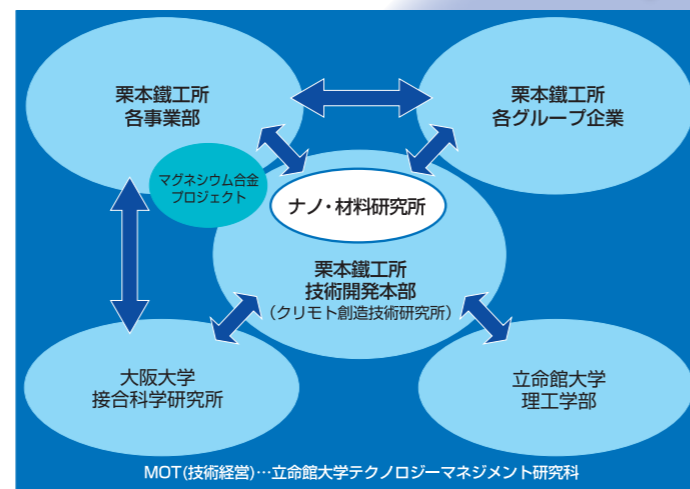
鉛フリー銅合金「クリカブロンズ」

ナノ・材料研究所の開発第一号として誕生したクリカブロンズ。加工性に優れ、耐圧不良に強く、また人体に有害な鉛を含有しない銅合金です。現在、クリモトグループの水関連分野で採用実績を積みながら、他分野への用途開発を進めています。



燃料電池小型移動体

燃料電池とは、水素と酸素の反応により発動するシステムです。クリモトでは、燃料電池を車いす、シルバーカーといった小型移動体に応用することで、高齢社会における活動的な社会構築に貢献していきます。



産学連携

大阪大学とのナノ・材料研究やマグネシウム合金開発、立命館大学とのバイオ関連研究など、今後のコア技術の拡大を目指した産学連携の協同開発体制を構築していきます。

ナノ・材料研究所

ナノテクノロジーの視点を取り入れた新材料を開発する「ナノ材料チーム」と、新しいナノ粒子プロセスを開発する「ナノ粒子チーム」という2つの研究グループが両輪となり、ナノテクノロジー技術の革新的製造プロセスの開発に取り組んでいます。



栗本コンクリート工業、関東物流センター、そして海外拠点。
国内で、海外で、環境技術の開発を進めています。

栗本コンクリート工業(株)

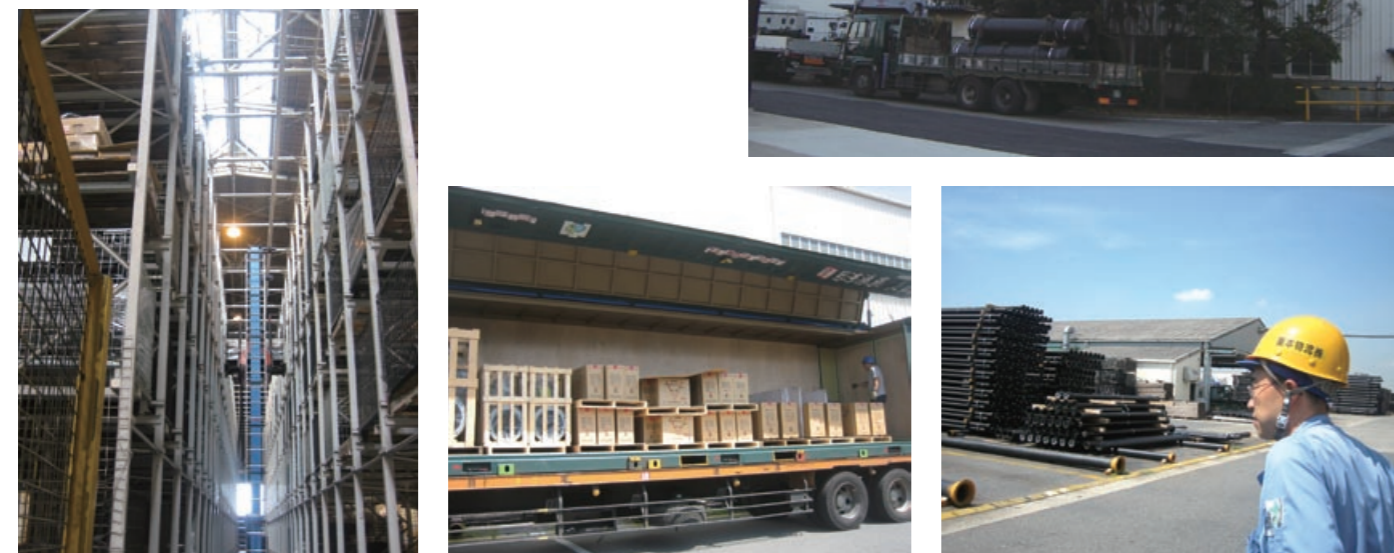
滋賀県は琵琶湖の東、東海道新幹線の京都・米原間の車窓から一瞬、湖東三山を背景に工場が確認出来る愛知川沿いに栗本コンクリート工業はあります。昭和36年1月23日に設立されて以来、一貫して下水道用遠心力鉄筋コンクリート管を製造してきました。標準的な下水道管だけでなく、1kmを超える長距離推進・超急曲線および超曲線施工に対応した特殊推進管で差別化を図り、多大な信頼と実績を築いています。主な製品は、セミシールドパイプ SSP (下水道推進工法用ガラス繊維鉄筋コンクリート管) やクリトMAX推進管(鋼・コンクリート合成管)。さらに、ハイガードパイプ(内面ライニング管)には、近年硫化水素対策として注目をあびている対酸・対薬品に大変優れたポリエステル樹脂を内面にライニングしております。これらの製品で、業界トップクラスの特許を保有しております。

近年多発する集中豪雨への対応として、緊急雨水対策事業が各地で計画されています。また下水管の工事も、都市部の交通渋滞の原因となる開削工法から、地中を推進する推進工法へ移行しています。当社のMAX管やSSPの採用がますます期待されています。



関東物流センター (モーダルシフトの拠点)

関東物流センターでは、地球に優しい輸送方法「モーダルシフト」を実施しています。これは、トラックによる幹線貨物輸送の代わりに、地球に優しく大量輸送が可能な海運または鉄道による輸送に転換すること。大量輸送には、石油資源消費量の削減・コストダウン・CO₂排出量の削減といった効果があります。関東物流センターを中心に、当社での物流計画の改善を進め、モーダルシフトへの取り組みを進めています。



民間・海外の展開

●タウンサ堰改修工事

パキスタンのパンジャブ州政府灌漑電力局より「タウンサ堰改修工事」を受注しました。現在、土砂吐ゲート7門・洪水吐ゲート22門・電気設備・付属設備の設計・製作・試運転を含む据付等の工事を行っています。工期は2009年3月15日まで。水資源の不足など、多くの問題を抱える同地方の解決となるよう、また工事を通じて日パ友好の足がかりとなるよう、尽力していきます。



●寧波東光五金有限公司

中国浙江省寧波市にある寧波東光五金有限公司(設立2001年11月)。呼び径φ400~φ1200までのバルブ生産を行う第一工場に続き、第二工場を増築しました。第二工場では最大呼び径φ4000までのバルブおよび中大型機械製品の素材の調達・加工・組み立てまでの一貫生産が可能となっています。また、将来的には当社の機械加工工場としての役割を担うことも、目的としています。



●海外新会社の設立

当社は海外比率拡大政策の一環として、米国の連続式混練機メーカー Readco Holdings, LLC および Readco manufacturing, Inc を買収し、工場や販売網を引き継ぐ形で北米市場に参入。新たに持ち株会社 Kurimoto USA, Inc と製造販売会社 Readco Kurimoto, LLC を設立しました。



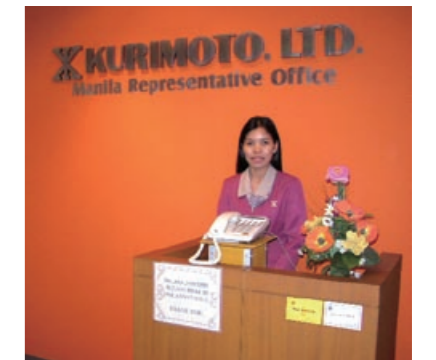
●ベトナムでの物件

ベトナムのタンソニャット空港・国際ターミナルアプローチブリッジへ、現地製造のワインディングパイプを納入いたしました。



●フィリピン支店の誕生

米国の他、フィリピンのマニラを支店へと昇格し、中国、ドイツ、米国の駐在事務所と合わせて、さらなる海外への展開へ向け、活動していきます。



クリモトのネットワーク

国内外に広がるクリモトのネットワーク。
住みよい社会環境づくり、地球に優しい技術開発を通じて、今後のさらなる発展を目指します。

■連結子会社

栗本建設工業株式会社
〒550-0015 大阪市西区南堀江1丁目11番1号
TEL.(06)6531-5802
[事業内容]土木建築総合工事請負他
[HP]http://www.kurimoto-ci.co.jp/

栗本商事株式会社
〒590-0907 大阪府堺市堺区緑町4丁目152番地
TEL.(072)232-9511
[事業内容] 鋳鉄管・軽量鋼管・その他の販売
[HP]http://www.kurimoto.co.jp/kurimototrading/

栗本化成工業株式会社
〒550-8580 大阪市西区北堀江1丁目12番19号
TEL.(06)6538-7701
[事業内容] ポリコンFRP管・合成樹脂成型品の製造・販売
[HP]http://www.kurimoto.co.jp/kurimotoplastics/

株式会社クリモテクノス
〒559-0011 大阪市住之江区北加賀屋2丁目11番8号
北加賀屋千鳥ビル
TEL.(06)6682-6526
[事業内容] 鋼構造物の工事
[HP]http://www.kurimoto.co.jp/kurimototechnos/

※栗鉄工事株式会社とクリモト・メンテナンス株式会社、栗本バルブエンジニアリング株式会社の3社を合併し、株式会社クリモテクノスとして、4月1日付でスタートいたしました。

栗本コンクリート工業株式会社 ⇒27
〒529-1383 滋賀県愛知郡愛荘町東円堂961
TEL.(0749)42-3111
[事業内容] ヒューム管他の製造・販売
[HP]http://www.kurimoto.co.jp/kurimotconcrete/

クリモト・トレーディング株式会社
〒592-8332 大阪府堺市西区石津西町15番地1
TEL.(072)280-7058
[事業内容] 鋳鉄管他の原材料の調達

ビー・エス・ティ株式会社
〒559-0023 大阪市住之江区泉2丁目1番64号
TEL.(06)6686-6505
[事業内容] 鋳鉄管他の工事のコンサルティング
[HP]http://www.kurimoto.co.jp/pst/

栗本物流株式会社
〒592-8332 大阪府堺市西区石津西町15番地1
TEL.(072)280-7071
[事業内容] 鋳鉄管他の運送業務

クリモトメック株式会社
〒559-0011 大阪市住之江区北加賀屋2丁目11番8号
北加賀屋千鳥ビル
TEL.(06)6686-3240
[事業内容] 各種産業機械その他の販売
[HP]http://www.kurimoto.co.jp/kurimotomeck/

クリモトファイナンス株式会社
〒550-8580 大阪市西区北堀江1丁目12番19号
TEL.(06)6538-7723
[事業内容] 資金の貸付、事務代行、債権管理

株式会社佐世保メタル
〒857-1164 長崎県佐世保市白岳町50番地の19
TEL.(0956)31-3101
[事業内容] 鋳鉄、鋳鋼品、各種鋳物の製造・販売

ヤマトガワ株式会社
〒550-0014 大阪市西区北堀江1丁目12番10号
TEL.(06)6541-5153
[事業内容] 鋳鉄管・合成樹脂成型品の販売

栗本エンバイロ株式会社
〒306-0206 茨城県古河市市丘里10番地3
TEL.(0280)98-1151
[事業内容] 廃棄物の再生事業
[HP]http://www.kurimoto.co.jp/kurimotoenviro/

三興機鋼株式会社
〒550-0015 大阪市西区南堀江1丁目11番21号
栗建ビル別館9F
TEL.(06)6531-3635
[事業内容] 鋳鉄管他の販売

栗本細野株式会社
〒332-0023 埼玉県川口市飯塚1-1-28
TEL.(048)252-2393
[事業内容] 鋳鉄管他の製造・販売

■非連結子会社

株式会社クリモトビジネスアソシエイツ
〒550-8580 大阪市西区北堀江1丁目12番19号
TEL.(06)6538-7312
[事業内容] 各種業務請負業、不動産賃貸及び損害保険代理業務、情報システム企画・開発・運営・旅行業

クリモトソーワ株式会社
〒306-0206 茨城県古河市市丘里10番3号
TEL.(0280)98-1151
[事業内容] 廃棄物再生事業
[HP]http://www.kurimoto.co.jp/kurimotosowa/

株式会社エフイーシー
〒105-0004 東京都港区新橋2丁目12番15号
TEL.(03)5501-2055
[事業内容] ノリル等の販売及び輸出入

株式会社クリモト地域医療開発室
〒550-0015 大阪市西区南堀江1丁目11番1号
TEL.(06)6531-7607
[事業内容] 医院開業コンサルタント
※社名を栗建テクノ株式会社から変更いたしました。

八洲化工機株式会社
〒532-0035 大阪市淀川区三津屋南3丁目1番22号
TEL.(06)6309-6461
[事業内容] 各種化学・医薬関連機械の設計・製造・販売及びメンテナンス
[HP]http://www.yashima-ce.co.jp

栗光股份有限公司
台湾 台北縣淡水鎮民生里民權路1-3號
TEL.+886-2-8809-7771
[事業内容] ノリル類の製造

株式会社サンライズ
〒759-0202 山口県宇部市大字沖ノ目字堂田398-2
TEL.(0836)33-8899
[事業内容] 軽量鋼管他の販売

江蘇栗新環保設備科技有限公司
中国 江蘇省常熟市虞山鎮莫城管理区
TEL.+86-512-5249-2651
[事業内容] 環境関連設備、立体駐車場製造、コンサルティング

寧波東光五金有限公司
中国 浙江省寧波市鎮海經濟開發区A区
TEL.+86-574-8659-9124
[事業内容] ノリル類製造

Kurimoto USA, Inc. NEW
[事業内容] 米国における持ち株会社
460 GrimLane York, PA17406 U.S.A.
TEL.+1-717-848-2801

Readco Kurimoto, LLC NEW
[事業内容] 産業機械製造・販売
460 GrimLane York, PA17406 U.S.A.
TEL.+1-717-848-2801

ベストを目指して
変化を続ける
クリモトグループ。
相互の絆を高め、
シナジー効果を
上げていきます。



環境イメージキャラクター「ささら」

■関連会社

北海道管材株式会社
〒007-0870 札幌市東区伏古10条4丁目3番5号
TEL.(011)782-3050
[事業内容] 鋳鉄管他の販売

株式会社アルト技研
〒063-0826 札幌市西区発寒6条11丁目1番1号(新道北口ビル)
TEL.(011)668-8411
[事業内容] 建設コンサルタント業

NPKソイルリサーチ株式会社
〒103-0027 東京都中央区日本橋1丁目15番1号
TEL.(03)5202-5277
[事業内容] 土地・土壌及び地下水の汚染調査・分析及び対策

大得作工業股份有限公司
台湾 台中市西屯區文心路3段241号8楼之2
TEL.+886-4-2291-1433
[事業内容] 水門・橋梁の設計・製作・据付

済南栗本天力化工設備有限公司
中国 山東省済南市高新開發区新宇路750号桜1单元
[事業内容] 乾燥・粉体プラント設備の生産・設計・販売・コンサルティング

■事業所

本社
〒550-8580 大阪市西区北堀江1丁目12番19号
TEL.(06)6538-7731 FAX.(06)6538-7750

東京支社
〒105-0004 東京都港区新橋4丁目1番9号
TEL.(03)3436-8001 FAX.(03)3436-8024

北海道支店
〒060-0002 札幌市中央区北二条西4丁目2 札幌三井ビル別館
TEL.(011)281-3301 FAX.(011)271-7850

東北支店
〒980-0014 仙台市青葉区本町1丁目12番30号 太陽生命仙台駅北ビル
TEL.(022)227-1872 FAX.(022)227-8417

名古屋支店
〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1丁目27番2号 日本生命世島ビル
TEL.(052)551-6930 FAX.(052)551-6940

中国支店
〒730-0013 広島市中区八丁堀16番11号 日本生命広島第2ビル
TEL.(082)227-5605 FAX.(082)227-5056

九州支店
〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番地11号 博多南ビル
TEL.(092)451-6622 FAX.(092)471-7696

横浜営業所
〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町3丁目32番地14
新港ビル3階301号室
TEL.(045)290-7861

和歌山営業所
〒640-8150 和歌山市十三番丁30番地 酒直ビル3F
TEL.(073)428-1277

山口営業所
〒753-0872 山口市朝田流通センター601-3
TEL.(083)928-7989

四国営業所
〒770-0802 徳島市吉野本町1丁目14番地
TEL.(088)625-9440

沖縄営業所
〒900-0033 那覇市久米1丁目1-13 ブランビル久米202号室
TEL.(098)869-7811

青森出張所
〒030-0936 青森市大字矢田前字弥生田9-3
TEL.(017)726-8525

淡輪研修センター
〒599-0301 大阪府泉南郡岬町淡輪838-20
TEL.(072)488-2090

■工場

住吉工場
〒559-0021 大阪市住之江区柴谷2丁目8番45号
TEL.(06)6686-3111

加賀屋工場
〒559-0023 大阪市住之江区泉2丁目1番64号
TEL.(06)6686-1010

堺工場
〒592-8332 大阪府堺市西区石津西町14番地1
TEL.(072)241-0225

大阪臨海工場
〒590-0977 大阪府堺市堺区大浜西町2番地の2
TEL.(072)238-9991

交野工場
〒576-0054 大阪府交野市幾野5丁目13番1号
TEL.(072)891-1671

古河工場
〒306-0206 茨城県古河市市丘里10番6号
TEL.(0280)97-1301

知多工場
〒478-0069 愛知県知多市新刀池2丁目7番
TEL.(0562)54-0311

岡山工場
〒709-0221 岡山県備前市吉永町金谷字西向53番1
TEL.(0869)62-9958

札幌工場
〒063-0835 札幌市西区発寒15条12丁目4番10号
TEL.(011)663-7553

仙台工場
〒981-3513 宮城県黒川郡大郷町味明字青木沢北山3番地12
TEL.(022)347-6201

福岡工場
〒822-0152 福岡県宮若市沼口760番地5
TEL.(0949)52-3755
※若宮工場から名称変更いたしました。

関東物流センター ⇒27
〒272-0003 千葉県市川市東浜1丁目2番2号
TEL.(047)320-6665

■海外事業所

フィリピン支店
11th Floor,6788 Ayala Avenue,Oledan Square,Makati City,Philippines
TEL.+63-2-886-7191

上海事務所
中国 上海市長寧区遼義路107号 安泰大樓707号室
TEL.+86-21-6237-5849

ヨーロッパ事務所
Berliner Allee 40 40212 Dusseldorf,Germany
TEL.+49-211-550-46411

※掲載されている連絡先は2006年12月現在のものです。